

○ 10月15日(土)

「ひびかせよう！ことばところ in 南丹 視察
(南丹市国際交流会館)



○ 冷泉 委員

皆さんの元気いっぱいの発表に、大変楽しい時間を過ごさせていただきました。

和知中学校の和知人形浄瑠璃部や大井小学校の発表は、地元根ざした古典芸能や民話を題材にしていて、自分の生まれ育った地の文化を知り、未来へ渡すという、大変有意義な活動だと思います。特に人形浄瑠璃については、指導する方にも誇りと意義を感じさせる立派な活動です。

八木西小学校の元気いっぱいの発表も楽しかったです。皆で力を合わせるということは大切ですね。

蕨田野小学校の狂言は、一つの役を何人かが分けて演じるという工夫がよく出来ていました。袴はもう少し長い方がよかったですと思います。

○ 10月15日(土)

「ひびかせよう！ことばとこころ in 南丹 視察 (南丹市国際交流会館)



○ 安藤 委員

南丹市国際交流会館コスモホールにおいて、「ひびかせよう！ことばとこころin南丹」を拝見いたしました。京都府が進める「古典の日推進事業」の一つで、日本語の美しさや表現に触れながら、学んだり考えたりしたことを発信するなど、「ことばの力」を豊かにはぐくむ取組として各管内で行われているものです。

会場では、管内の7つの学校の発表がありました。「朗読」「群読」「意見発表」、そして古典芸能の「落語」「剣舞」「狂言」など、それぞれに「声の調子」に変化を持たせたり「身振り手振り」など体全体で表現したりするなど、学年が上がるにつれ表現の豊かさが感じられ、鑑賞していた低学年の子どもたちも「見て聞いて感じた通り」に楽しんでいたと思います。

特に、「教室はまちがうところだ」の詩の群読では、生き活きとした表情はもちろん、息も心もひとつになって、「まちがうことをおそれちゃいけない」「まちがったものをわらっちゃいけない」と、繰り返し語られる詩と重なるほど、その発表には力強さやたくましさを感じました。

古文を丸暗記したり、呪文のようにして覚えたりするのではなく、発表した子どもたちの学校生活の中で実践している様子が想像できる発表だと感じました。多様な意見や間違いを受け入れ、互いに認め合える関係がしっかりとできた普段の学級づくりや学習の成果も感じられたひとときでした。

南丹地域には古くから伝わる「和知人形浄瑠璃」があります。一人で大振りの人形を操る技術、劇中人物のセリフやその仕草などを伝える「語り」、場面の情景を写す「音」が一体となり、ひとつの物語が出来上がります。トップバッターを務めた和知中学校では、学校のクラブ活動時に地元住民の方の指導のもと、「人形浄瑠璃」を学んでおられます。「見て」「聞いて」「知って」「理解」し、それを発信する過程で、想像力(創造力)が磨かれ、豊かな表現力が育まれるのでしょうか。生徒たちの舞台を拝見するのは二回目でしたが、前回よりも一体感があり、聞き手の想像を膨らませる舞台となっていました。感受性豊かで、心身共に吸収力の高い若い頃に、学業以外の経験をすることも大切なのかもしれません。

時代の流れとともに地域に根付いた文化が衰退を余儀なくされるものもある中、こうして小中学校でのクラブ活動の指導や文化活動の発展と継承にお力添えを頂いている地域住民の皆様、心より感謝申し上げたいと思います。